

平成 20 年度森林吸収源インベントリ情報整備事業土壌断面調査実技講習会報告

開催日 2008 年 7 月 31 日
開催場所 森林総合研究所構内

県の担当者を対象に、土壌断面調査の実技講習会を行った。今年のテーマは、グレード 1 の調査で迷うことの多い土壌型判定に必要な「層位区分ができるようになる」「土壌構造を実感し、見方の基本を理解する」であった。

当日は、それまでの連日の猛暑がウソのような薄曇りで、絶好の土壌調査日和だった。参加者は、県の事業担当者 13 名の他、大学から土壌の勉強のために 6 名が集まった。事前に 4 断面を準備しており、参加者は 3 班に分かれ、それぞれスギ林、アカマツ林、コナラ林の断面に向かった。最初に講師から代表断面調査の概要説明を受け、その後、実際に断面の一部を整形した。参加者全員が交替で断面整形を行った後、断面を写真撮影した。そして講師・助手らに土壌断面の観察の勘所を教えてもらいながら、層位区分、断面スケッチを行った。

午後は、自分の班が担当していなかった他の断面を観察するために、短時間で観察、移動を繰り返す形式を取った。各断面にはそれぞれ講師が待機しており、そこに各班が訪れて、土壌断面の説明を受けた。褐色森林土から淡黒色土、深さ 1m のところにガラス片があった完全な造成地の土まで、様々な土壌断面を一度に観察できるまたとない機会であった。但し、時間が限られていたため、それぞれの断面をじっくり観察したり、参加者で断面記載の仕方などについて議論できる余裕がなかった。最後にモノリス標本館で日本で見られる様々な森林土壌の土壌標本を見学した。

今回の講習会は、一日のうちに複数の土壌断面を観察でき、今後のインベントリ調査をする上で非常に参考になったのではないかと考える。ただ、惜しむらくは、参加者のレベルがさまざまであり、初心者にとって土壌調査法をマスターするには時間が足りず、消化しきれなかったところもあったようである。今後の検討課題だと考える。

実習光景フォトアルバム

自分の判断で断面をスケッチし、層位を区分してみる。



自分が判断した層界に串をさし、判断基準を述べる。



講師による層位や特徴の解説



土壌を採取して比較。土色の判定や土壌構造の見方の説明。



模範解答を見ながら断面記載の確認と土壌型の判定



モノリス標本による土壌の解説



断面に残った受講生の指の痕、痕、あと

